

式 辞

相模原商工会議所 会頭

杉岡 芳樹



本日ここに、日頃より当商工会議所をご支援いただいている多数のご来賓のご臨席を仰ぎ、相模原商工会議所創立50周年記念式典を挙げてまいりますことは、深く慶びとするところであり、ご多忙の中ご出席賜りました皆様には、相模原商工会議所を代表して、衷心より厚くお礼申し上げます。

相模原商工会議所の歴史は、前身である「相模原市商工会」の時代まで遡ります。

昭和以降の市勢の発展、産業の変遷とともに築き上げてきた歴史を辿りますと、かつて「相模野」と呼ばれ、山林や桑畑が多く養蚕業が盛んであったこの地は、戦前の軍都計画に端を発する都市基盤の整備を経て、7昭和30年代には、工場誘致政策によって多くの企業が進出し、県下屈指の内陸工業都市として脚光を浴びるようになりました。工業の発展に伴う旺盛な労働力需要と首都圏におけるベッドタウン化は、本市の人口を急増させ、市内各地において事業所の増加や商店会などの組織活動の活性化が進みました。産業の変遷を背景に、昭和36年には「相模原市商工会」が設立されましたが、急成長を続ける市勢と相次ぐ大企業の加入により会員の交流密度が増す中、商工会会員の間で商工会議所設立の気運が醸成されていきました。

当時の会長はじめ役員職員の刻苦精励のもと、財政の確立と組織の強化が図られ、昭和42年6月には多くの方のご支援によって商工会館が竣工、昭和48年4月、「相模原市商工会」を発展的に解散し、神奈川県下12番目の商工会議所として3,311の会員とともに、念願の「相模原商工会議所」が設立されたわけであります。

商工会議所設立後も市勢は成長を続け、平成15年には中核市に、平成22年には戦後に生まれた市としては初めてとなる政令指定都市に移行いたしました。

近年では圏央道の相模原愛川インターチェンジ、相模原インターチェンジの開設に伴い物流拠点が数多く立地し、また、リニア中央新幹線の（仮称）神奈川県駅建設が橋本駅周辺で着々と進むなど、いよいよ名実ともに「広域交流拠点」の形成に向けて動き始めております。

こうした中、当商工会議所におきましては現在、会員企業は約4,600を数え、商工会時代より活動を続ける青年部や女性会に加え、相模原市青年工業経営研究会、近未来技術研究会、都市産業研究会といった3つの内部団体が長年にわたり活動を継続しております。

加えて平成28年からは、成長産業であるロボット市場でのビジネス化を図る「さがみはらロボットビジネス協議会」の事業を展開するなど、会員活動の幅を広げており、多くの皆様の参画をいただいております。

今日の私共がありますのも、ひとえに、国ならびに県、市のご支援はもとより、創立から現在までの役員、議員、会員の皆様の多大なるご尽力の賜物でありますことは申すまでもありません。

改めて、創立からの半世紀を振り返りますと、この50年という期間の道のりは決して順風満帆だったわけではありません。

オイルショックやバブル経済の崩壊、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症など、数々の困難に直面しながらも、先人達は果敢にそれらを乗り越え、歴史を紡いできました。

そして今もなお、コロナ禍の影響による生活変容や、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した国際社会の変容と物価高騰などによる苦難の中にありますが、これからも、我々自身が次の50年に向けて、時代状況に対応するための変革の歩みを着実に進め、相模原商工会議所の新しい歴史と将来に誇れる伝統を築き上げていかなければなりません。

この節目に際し、役員、議員はもとより、会員各位が固い絆のもとで決意を新たに、本日の記念式典を新たな出発の起点として捉え、地域経済の持続的な発展に向けて邁進してまいります。

本日も列席賜りましたご来賓の皆様におかれましては、当所に対しまして今後とも引き続きご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。本日の式辞とさせていただきます。

祝 辞

経済産業省 関東経済産業局 産業部 次長

小澤 元樹 様



ただいまご紹介にあずかりました、関東経済産業局の小澤でございます。本日は、相模原商工会議所創立50周年記念式典がかくも盛大に行われることに、心からお祝い申し上げる次第でございます。

さて、今ほど杉岡会頭からご紹介がありました通り、相模原市の産業の強みというものにつきましては、何といたっても世界に冠たる企業の生産拠点が多数立地していること、それに加えて、独自技術やビジネスモデルを持っていらっしゃる中堅、中小企業も多数存在していること、そして元気の商店街をはじめとして多くのサービス業が立地しているということを、改めてお話を伺いながら認識した次第です。

そして、相模原商工会議所をはじめとして、市、それから産業支援機関、大学等が連携して、彼らを重層的に支援する強固な枠組みができていくことも大きな強みだと感じております。

相模原商工会議所におかれましては、昭和48年に設立されてから、この支援の枠組みの中心的存在としまして、また、事業者の皆様が一番身近な相談相手として、親身に寄り添った対応をされていると感じております。

その役割はコロナ禍を経まして、ますます大きくなる一方でございます。杉岡会頭をはじめ歴代の議員、役職員の皆様のご尽力に心から敬意を表するものでございます。

また、青年部、女性会をはじめとする研究会や協議会、そういったものが経営者の皆様のネットワークとして、互いに研鑽され、高めあった上で、地域の活性化に大変重要な役割を果たしている。こういった長年にわたる積み重ねのもと、50年がたった今、これまで相模原地域の経済発展に多大なるご貢献をされてきた事に対し、改めて敬意を表するものでございます。

さて、各地ではマスクも取れ始め、日常への回帰が進んでおりますが、一方で地域経済は物価高、原油、原材料高といった非常に厳しい状況が続いているところでございます。

そのような状況の中、経済産業省といたしましては、まず何といたっても中小・小規模事業者の皆様の適正な取引環境の整備、それから事業承継、起業、創業といったことが進む事業環境の整備に力を入れて取り組んでおります。

加えて、事業の再構築や、デジタルトランスフォーメーション、グリーントランスフォーメーションといった新たな取り組み、チャレンジを後押しさせていただくことで賃上げに繋げ、成長と分配の好循環を地域においても実現すべく、各種施策を講じているところであります。

事業環境が日々変化していく中、このような施策を有効なものとしていくためには、各機関が各々で支援に取り組んでいては企業が抱えている本質的な課題に届いていけないと考えております。

我々としては商工会議所の皆様をはじめとしまして、地域の支援機関の皆様、その他金融機関の皆様をはじめ、ステークホルダーの皆様と連携をして、知識やノウハウを総動員して、総がかりで施策を進めていくことが大事だと考えております。引き続き我々としましても、現地に足を運び、皆様と一緒に悩み、汗をかきながら地域活性化のために全力で邁進して参りたいと考えております。是非とも、身近な経済産業省として関東経済産業局を使い倒していただければと考えております。

相模原地域の次の50年はリニアの開通など地域が飛躍する大きなチャンスになるだろうと考えております。私共といたしましても、相模原から日本を元気にすべく、地域の成長に向けて全力で支援してまいりたいと考えております。

最後になりますが、相模原商工会議所の益々のご発展と、今日ご出席の皆様方、そして関係者ご家族の皆様のご健勝をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

祝 辞

神奈川県 産業労働局 局長

河鍋 章 様



ただいまご紹介をいただきました、神奈川県産業労働局長の河鍋でございます。

本来ならば黒岩知事が参りましてご挨拶申し上げるところですが、残念ながら所用のため、こちらにお伺いすることができません。知事からは皆様にくれぐれもよろしく申し上げるようにと言付かってまいりました。

本日は相模原商工会議所創立50周年記念式典がこのように盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、杉岡会頭はじめ、相模原商工会議所の皆様から日頃から産業労働行政はもとより、県政全般にわたり多大なご支援ご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

相模原商工会議所は、これまで長年にわたり、地域商工業の振興、発展、地域経済の活性化、そして社会福祉の増進に大きく貢献してこられました。こうした地域に根ざした皆様の活動が、地域経済や地域社会をしっかりと支えていただいていることを、県といたしましても大変心強く感じております。

皆様の心からのご尽力に改めて敬意を表します。

また、ここ相模原市は神奈川県が取り組んでいる「さがみロボット産業特区」の10市2町の先頭を走る都市としてロボット産業にも力を入れていただいているとともに、リニア新駅の創設に合わせて、橋本をロボットが溢れるまちづくりにと取り組んでいるという事を承知しております。

特区も3期目を迎えました。ロボット産業の発展に向け、県と共に歩んでいただければというふうに思っております。

さて、先週5月8日に新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが移行しまして、ようやくコロナの影響は収束し、景気が持ち直していくことが期待されています。

一方、エネルギー、原材料価格の高騰等により、県内中小企業を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。

手前味噌ですが、県の施策をご紹介いたしますと、このような中において経済の好循環を回復させるため、今年度も中小企業等の事業転換を支援する「ビジネスモデル転換事業費補助」を実施するほか、事業転換等を後押しする「コロナ対策融資」や、借り換え要件を緩和した「伴走支援型特別融資」など、経営改善に向けた資金繰り支援を行っています。

またキャッシュレス決済時にポイントを還元する「神奈川ペイ」の第3弾や、商店街が実施するプレミアム商品券発行事業への補助など、消費の downstairs のための支援も引き続き行ってございます。

この他、公益財団法人神奈川産業振興センターKIPに設置しているプロフェッショナル人材戦略拠点において、中小企業におけるデジタル人材の採用をサポートするなど、中小企業の経営体質の強化に向け取り組んでいます。

加えて、2050年の脱炭社会の実現に向けて、5月8日に中小企業のカーボンニュートラルや脱炭素化に係るワンストップ相談窓口をKIPに設置しまして、環境面と経営面から支援を行うとともに、まだ取り組んでいない企業や、必要性を感じていない企業に対して、脱炭素経営の重要性の普及啓発に取り組んでいます。

こうしたことを行っておりますが、県内経済の活性化に向けては、これまで以上に相模原商工会議所をはじめとした支援団体のお力が不可欠です。引き続き県の施策にご理解ご協力をお願い致します。

結びになりますが、相模原商工会議所の益々のご発展と、本日お集りの皆様のご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

祝 辞

相模原市 副市長

森 多可示 様



ご紹介いただきました相模原市副市長の森と申します。

本来であれば、本村市長がこの場に参りまして皆様にご祝辞を申し上げるところでございますが、あいにく公務がございまして、私が代わりに出席をさせていただきました。本村市長からはくれぐれもお集まりの皆様にお祝いの言葉を伝えるようにと仰せつかってまいりました。

さて本日は、相模原商工会議所創立50周年記念式典がこのように盛大に開催されること、誠にありがとうございます。また、このような記念すべき式典の席にお招きいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

杉岡会頭をはじめ商工会議所の皆様におかれましては、日頃から本市産業の発展にご尽力いただくとともに、市政運営全般にわたりまして多大なるご理解とご協力を賜っております。このことに関しまして心から御礼申し上げます。

相模原商工会議所におかれましては昭和48年の設立以来、会員相互の力強い結束と信頼のもと、政策提言、経営支援、地域振興など様々な活動を展開され、本市産業の発展に大きな役割を果たしていただいております。

歴代会頭をはじめとする役員議員、ならびに会員の皆様のご努力によりまして、半世紀もの長きにわたり、こうした様々な取り組みを継続され、本市産業の発展にご尽力いただいております。深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

先ほど、相模原商工会議所創立50周年記念式典宣言を手元に頂戴し、これを拝見するだけでも、今後の50年に向けた相模原商工会議所の力強い足取りが感じられ、私共としても大変心強く感じているところでございます。

長きにわたる新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、5月8日から感染法上の位置付けが5類に引き下げられる、コロナ前の状況に戻つつありますが、とは言え、一方で世界的な原油、原材料価格の高騰によりまして、企業や事業者の皆様のご経営は依然として厳しいものがあると、このように感じております。

もちろん市民生活にも大きな影響が及んでおります。これまで本市では、コロナの影響を受けております企業や事業者を始めとする皆様のご支援のために、「事業継続応援補助金」、あるいは「サンキューキャッシュバックキャンペーン」「paypayを活用したポイント還元」などを実施しては今年度も引き続き、販路開拓支援や事業承継等の事業者の皆様へ寄り添った支援を行ってまいりたいと考えてございます。

また、本市は「さがみロボット産業特区」の対象エリアとなっております。市民の憩いの場でもありますJAXA相模原キャンパス、リニア中央新幹線の神奈川新駅が設置されるなど、先進的な分野で大きなビジネスチャンスが生まれます。これらを生かした取り組みによりまして「ロボットのまちさがみはら」をいっそう推進してまいりたいと考えております。

また、本市は首都圏にありながらも、都市と自然が共存し、身近に自然を体験することができる大きな魅力を持った都市でもございます。こうしたポテンシャルを最大限活用しながら、急激に変化する時代に適応し、発展進化を続けてまいりたい。そのためにも相模原商工会議所の皆様のお力添えは欠くことのできないものでございます。

どうぞ皆様におかれましては今後の本市の取り組みにご期待いただくと共に、なおいっそうのご理解とご協力、そしてお力添えを賜りたいとこのように思っております。

結びとなりますが、相模原商工会議所の益々のご発展、そして、会員皆様、ならびに本日お集まりの皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

祝 辞 (代読)

日本商工会議所 総務部長

塩野 裕 様



相模原商工会議所が創立50周年を迎えられ、本日、このように記念式典が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

昭和48年の創立以来、常に地域のリーダーとして商工業の振興や地域経済社会の発展に大きく貢献してこられました。

これもひとえに歴代および現在の役員、議員、会員、青年部、女性会、そして職員の皆様のためまぬご尽力の賜物と存じ、深く敬意を表します。

さて、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられ、ビヨンドコロナの新たなステージに入りました。

また、複合的な要因による物価上昇など大きな環境変化が次々に押し寄せ、極めて予測困難な状況が続いています。

今こそ商工会議所の創設者である渋沢栄一翁の「逆境の時こそ、力を尽くす」という信念に学び、我々民間が成長の原動力であるという当事者意識を持ち、新しい視点からの「変革」に挑んでいかなければなりません。

相模原商工会議所においては、デジタル人材の育成を目的としたセミナーの開催や、生産性向上、業務改善につながるデジタル化を商工会議所から提案する無料の提案型の専門家派遣事業を実施され、中小企業のDX化を後押しする取り組みに大変力を入れておられます。

また、リニア中央新幹線の開通を契機とする市内への産業集積、企業誘致の促進や交流人口拡大に向けた観光振興も積極的に推進されていると伺っております。

こうした活動はまさに、会員企業が挑む「変革」を力強くサポートするものであり、大変心強い限りです。

今後も商工会議所が地域の中核となり、地域の一層の発展に向けて大きな役割を果たされますことを期待しております。

日本商工会議所は昨年、創立100年という節目を迎え、9月には天皇陛下のご臨席を仰ぎ、記念式典を挙行政致しました。

陛下からは、相模原商工会議所をはじめ、全国の商工会議所が長年にわたって取り組んできた活動に対する労いとともに、「今後も力を尽くされることを希望する」というお言葉を賜りました。

「地域とともに、未来を作る」の理念のもと、未来に向けた新たな歩みを進めていく決意を胸に、志を高く、新しい時代を皆様と共に切り拓いてまいりたいと思います。

相模原商工会議所におかれましては、創立50周年を新たな出発点として、杉岡会頭を中心に、より一層結束を深められ、積極的な活動の展開により、コロナ禍からの復興、そしてさらに豊かで活力ある地域が創造されますことを衷心よりご期待申し上げます。

結びに、本日表彰の栄に浴されます皆様方にお祝いを申し上げますとともに、ご参会の皆様方の今後の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

令和5年5月16日
日本商工会議所
会頭 小林 健

祝 辞

神奈川県商工会議所連合会 会頭

上野 孝 様



この度、相模原商工会議所が創立50周年を迎えたことを心よりお喜び申し上げます。

半世紀にわたって築き上げた伝統を讃え、新たな船出を祝う晴れの式典にこのようにお招きをいただき、大変光栄に存じております。

相模原商工会議所は昭和48年の創立以来、地域の総合経済団体として中小企業を中心に、商工業の振興に大きな貢献を果たしてこられました。

相模原市は平成19年に人口70万人を超え、平成22年には本県で3つ目となる政令指定都市に移行するなど、目覚ましい発展を遂げてこられました。その原動力となる商工業を牽引してこられた杉岡会頭をはじめ、歴代の会頭、役員、並びに会員の皆様方のご尽力に深く敬意を表する次第でございます。

つい先日発刊されました日本商工会議所の機関紙「石垣」の中におきまして、杉岡会頭は、経営される会社の先代社長である母上から「プロミス」という言葉を念頭において生きるように教えられたということをお話されています。

10年前に杉岡会頭が就任された折には、市と連携をより一層強化するとともに、経済支援団体との協力を進めながら、中小企業の支援や産業振興など、施策の充実、強化を図り、会員企業に頼られ、役に立つ商工会議所を目指したいと抱負を述べられておられました。

本当にそのプロミスの通り、50周年を迎えられた相模原商工会議所は、会員企業に寄り添い、コロナ禍からの再生を確固たるものとするため、日々懸命のご努力を重ねられておられます。

さらに相模原商工会議所は、相模原市とともに、着々と建設が進められているリニア中央新幹線神奈川県駅のお膝元として、こうした時代の変化を先取りし、力強く地域経済の活性化を推進されておられます。

またプロミスという言葉は、約束という意味だけではなく、期待、希望という意味もそこに含んでいるということでございます。相模原商工会議所が50年という節目の年を迎えられ、杉岡会頭のリーダーシップのもと、次の100年に向かって希望の光に満ちたスタートを切られましたことを心よりお喜びを申し上げたいと感じる次第でございます。

相模原商工会議所の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、簡単でございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。